

**2026年3月期
第1四半期決算説明資料**

Institution for a Global Society株式会社
(東証グロース：4265)

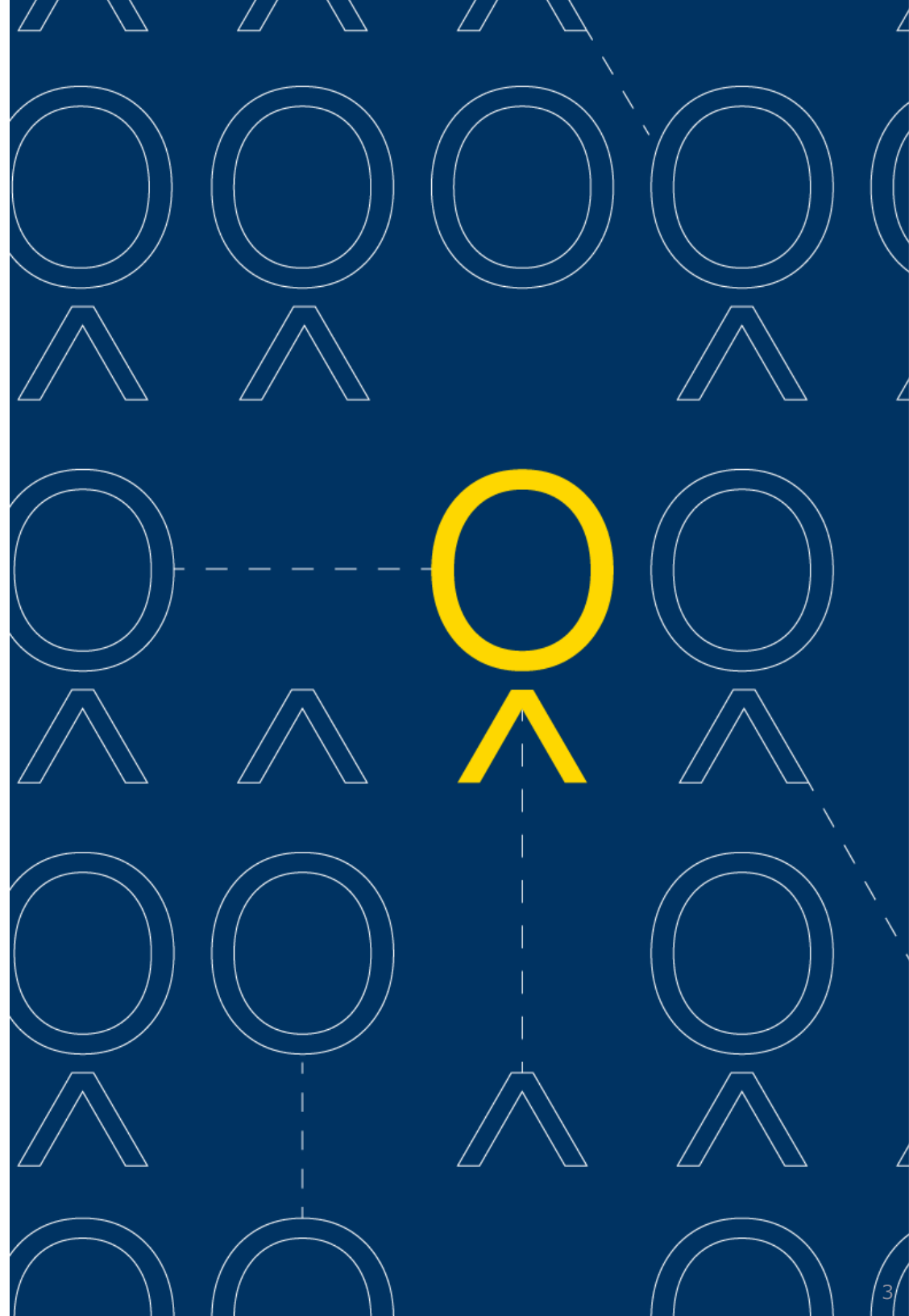
IGS

2025年8月14日

目次

01	会社概要	03
02	1Q業績ハイライト	10
03	事業別ハイライト	14
04	補足資料	18

01 ■ 会社概要



Purpose

**分断なき持続可能な社会を実現
するための手段を提供する。**

Vision

**人を幸せにする評価と教育で、
幸せを作る人、をつくる。**

人にとって正しく評価されるということは、自己肯定の種であり、その種は一生育ち続けます。自己肯定は、自己成長の源泉です。

自分を肯定できる。それを励みにもっと成長する。そんな人が増えればきっと、世の中はもっとハッピーになると、信じています。

IGSは、ビジョンとテクノロジーで、評価と教育の未来を、切り開いていく会社です。

誰もが経験する、評価の“痛み”



個人



「テストの点数や一枚の経歴書だけで、私の価値が判断されてしまう…」

「特に最近の入試や就活では、探究学習やリーダーシップといった『見えない頑張り』を、どう伝えれば正しく評価してもらえるんだろう…」

自分の持つ多様な能力を証明できずに自己肯定感を失い、挑戦する前から進路やキャリアの選択肢を狭めてしまう。

企業



「**人的資本経営**と言われても、具体的に何をどう開示すれば**企業価値**に繋がるのか分からない…」

「結局、社員の能力を**感覚的**にしか捉えられず、採用や配置のミスマッチが後を絶たない…」

最適な人材戦略が描けず、組織の生産性が向上しない。結果として、競合に対する優位性を失っていく。

学校（教員）



「生徒一人ひとりの『意欲』や『粘り強さ』を、どう評価すればいいんだ…」

「評価業務に追われ、生徒と向き合う時間が足りない…」

画一的な教育に陥り、生徒の主体性や個性が失われる。

社会



「適材が、適所に行き渡らない…」

「見えない価値が、埋もれたままになっている…」

社会全体の生産性が低下し、成長の機会を損失し続ける。

【所有権の不在】

「私の学歴、職歴、そして社内での評価データは、一体誰のもの？」

「会社を辞めたら、これまでの頑張りの記録は全て手元から消えてしまう…」

課題：
個人の価値あるデータが、
個人の資産になっていない

【信用の非流動性】

「転職や進学、副業のたびに、自分のスキルや実績を証明する書類を一から集め直すのは大変だ…」

課題：
個人の「信用」や「能力」が、組織の壁を越えてスムーズに流通していない

【信頼性の揺らぎ】

（採用担当者視点）
「この経歴書や推薦状は、本当に信頼できるものなのだろうか？」

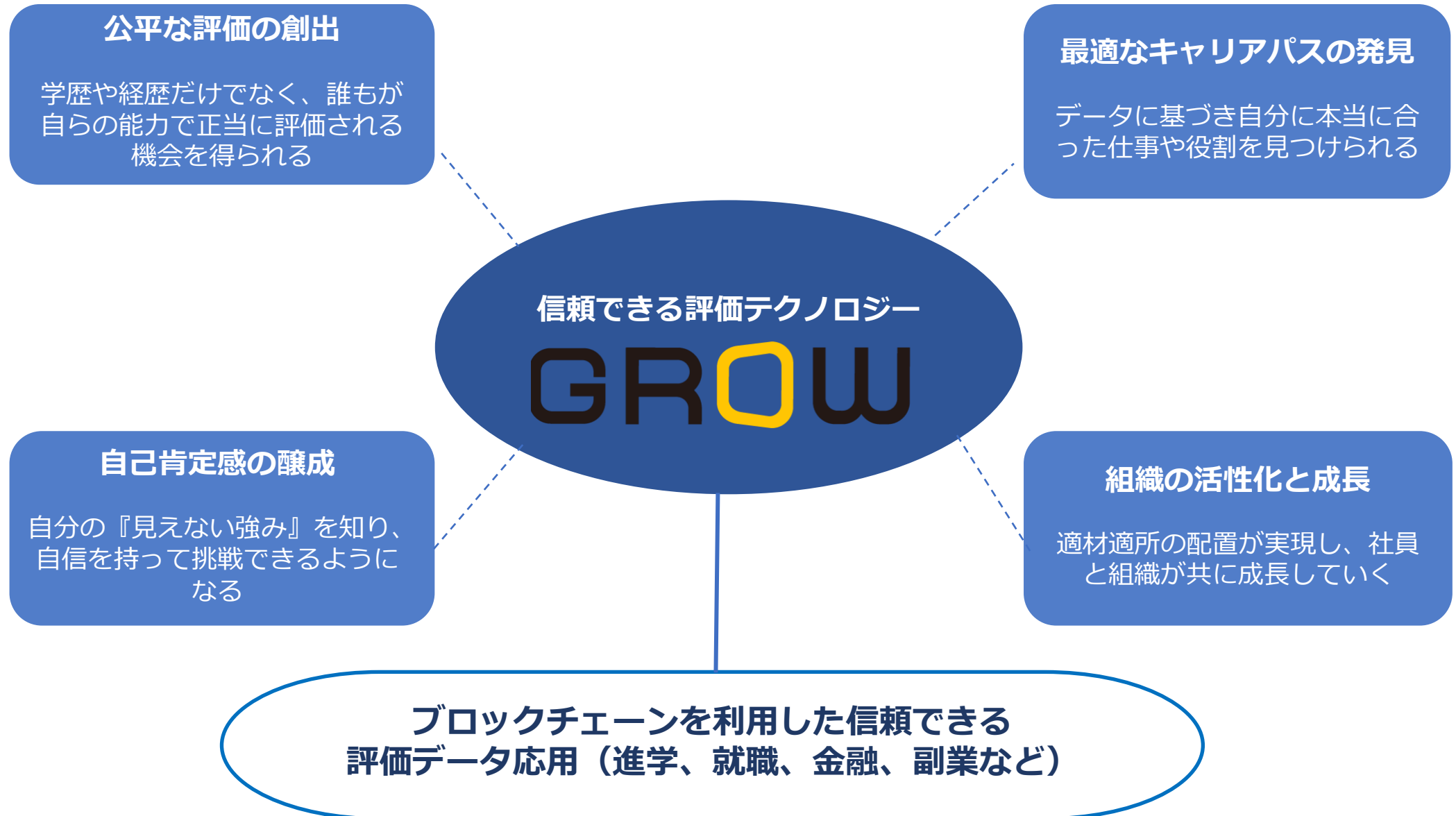
課題：
デジタル化された証明は、改ざんのリスクと常に隣り合わせである

これにより、個人の挑戦は阻まれ、企業の採用効率は上がらず、社会全体で人材の最適配置が実現されない

信頼できる評価と活用が、すべての可能性を解放する



私たちは、テクノロジーの力で評価の“痛み”を“希望”に変え
評価データが信頼のもとに活用される世界を構築します！



事業コンセプト：分断なき社会の実現に向けたロードマップ



【私たちの目指すもの】

私たちは、**信頼できる評価テクノロジー**を社会インフラにすることで、**一面的評価による機会損失**という社会課題を解決し、**分断なき持続可能な社会**を実現します。

課題：一面的な評価による機会損失

解決：信頼できる評価テクノロジー



HR 事業

人的資本経営
採用・育成・配置



教育事業

非認知能力
可視化・育成

GROW



WEB3/PF事業

ブロックチェーンで
個人の価値を本人に還元

事業構造

中核（CORE）：AI評価システム「GROW」

人の潜在能力・非認知能力を公平に可視化する
全ての事業の心臓部

現在

主に2つの事業で価値を創出

HR事業: 企業の人的資本経営を支援し、
企業価値を向上

教育事業: 次世代の非認知能力を育み、未来の
人材を育成

次のステージ

PF/Web3事業で価値を個人へ

HR・教育で得た信頼のデータをブロックチェ
ーンで個人に還元。個人が自らの能力を生涯証
明できる世界のインフラを構築

独自技術 -データ信頼性の根幹-

- 特許取得済の診断ゲーム（IAT）で、潜在的な気質を客観的に測定
- AIが評価者の傾向を補正し、公平な360度評価を実現
- 評価データ利用のブロックチェーン技術で特許

⇒ 他社には模倣不可能な「評価の信頼性」「評価の応用」を担保

1.7億件超の評価データ

- 8年間で蓄積した国内最大級の評価データベース
 - ★評価件数：1億7千万件超
 - ★登録アカウント数：125万人超
- データがAIの精度を向上させ、さらに利用者を増やす「正の循環」を構築

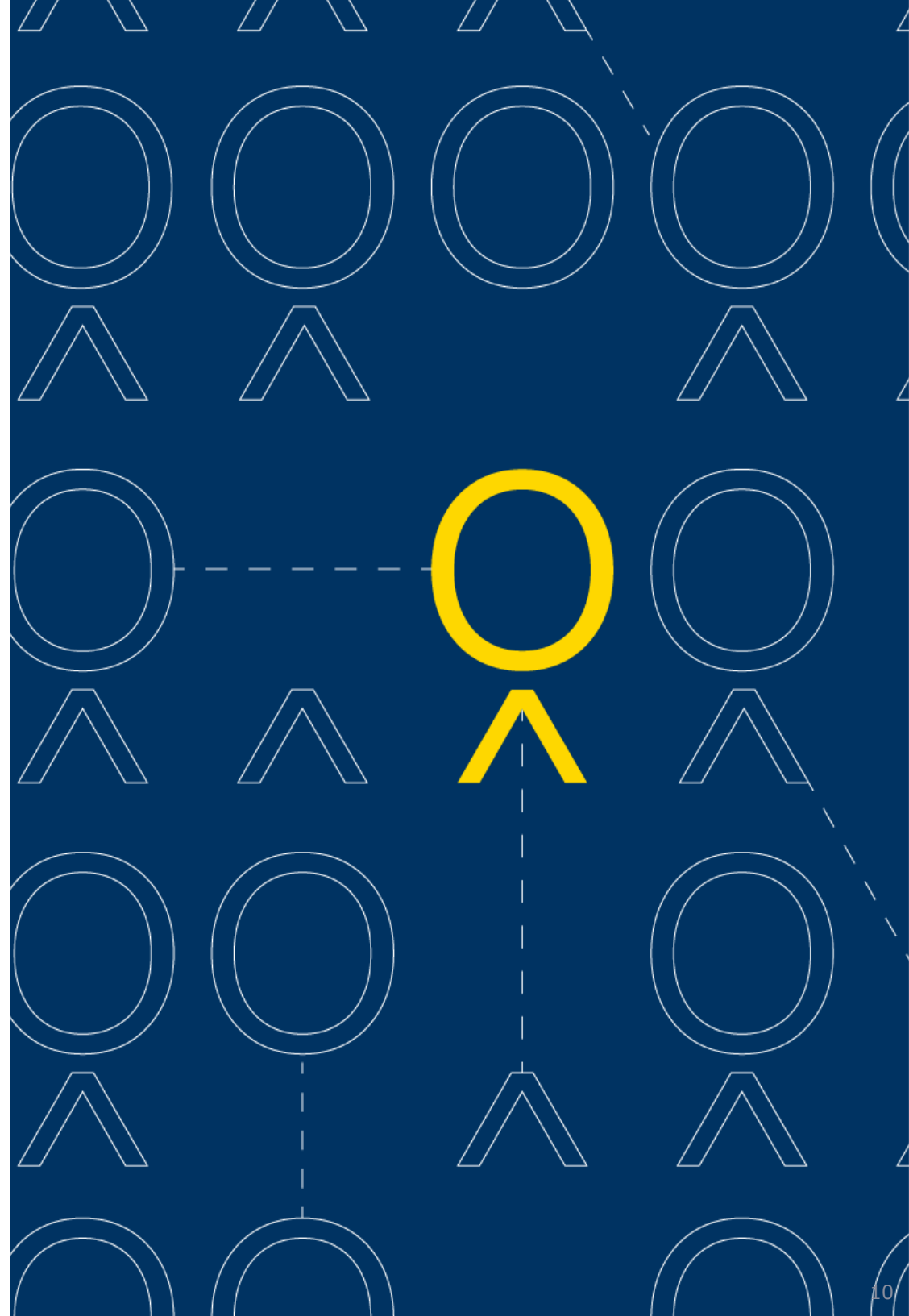
⇒ 時間とコストでは追いつけない強力な「データ障壁」

3事業連携による ネットワーク効果

- HR・教育・Web3の3事業が連携し、単独事業の競合にはない強みを発揮
- **顧客基盤の好循環：**
HR/教育事業の顧客基盤が、将来のWeb3事業のユーザー基盤へ

⇒ 事業間のシナジーが生み出す究極の「エコシステム障壁」

02 ■ 1Q業績ハイライト



売上高

1Q連結実績

134百万円

前期比+24.5%

前期1Q連結実績

108百万円

売上高は、全社で前期比+24.5%。
HR・教育事業は前期比増収。

一方で、PF事業は転職支援サービスの計画的な縮小に伴い、前期比は減収。

四半期純損失

1Q連結実績

△**50**百万円

前期比+69百万円

前期1Q連結実績

△**119**百万円

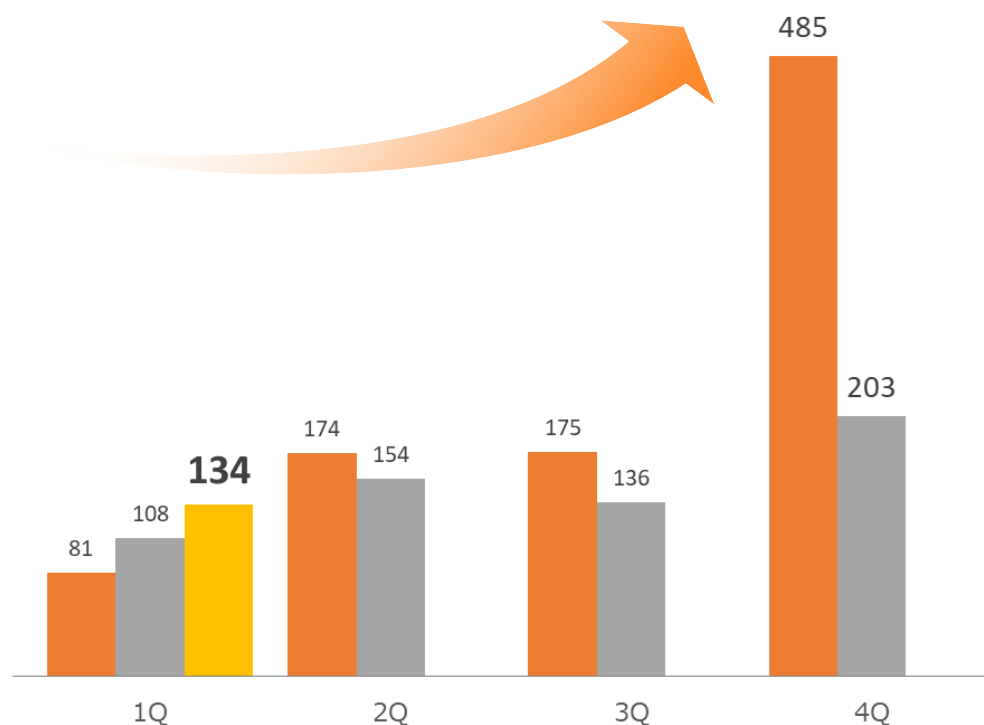
上記の通り、HR・教育事業の売上高増加や、全社的にコスト構造を見直し前年同期比で15%のコスト削減を達成すべくコスト最適化に努めた結果、**前期比大幅改善**。

- 1Qについては3期連続で売上高増加、営業利益も改善
- HR・教育事業は売上計上時期が3月に偏る季節的要因があり、そのため全社の売上高・営業利益ともに4Qに偏重する傾向がある

売上高推移

百万円

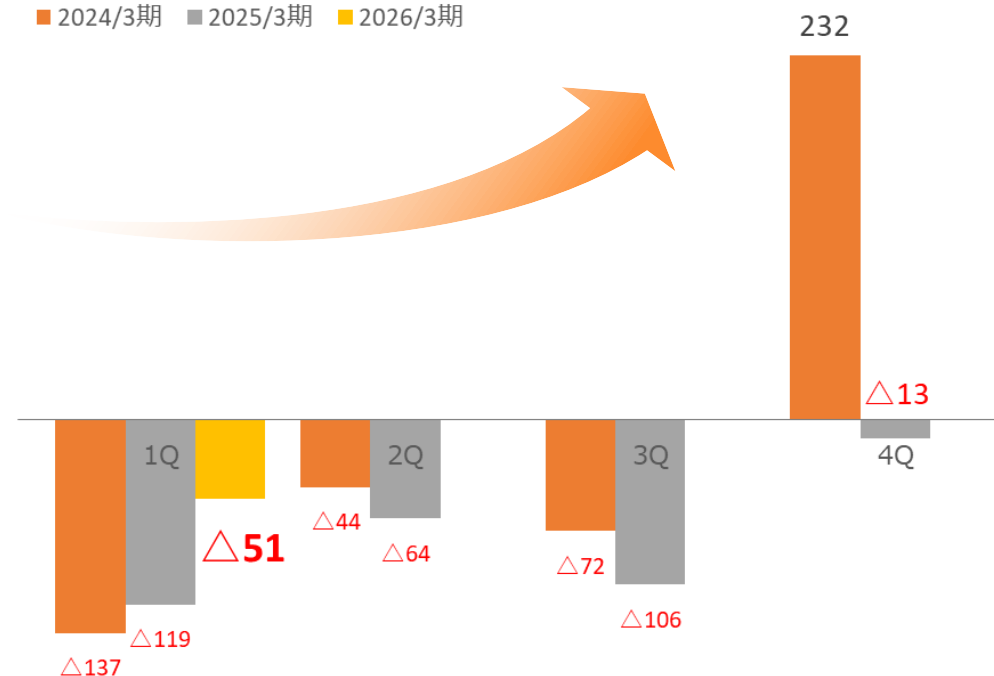
■ 2024/3期 ■ 2025/3期 ■ 2026/3期



営業利益推移

百万円

■ 2024/3期 ■ 2025/3期 ■ 2026/3期



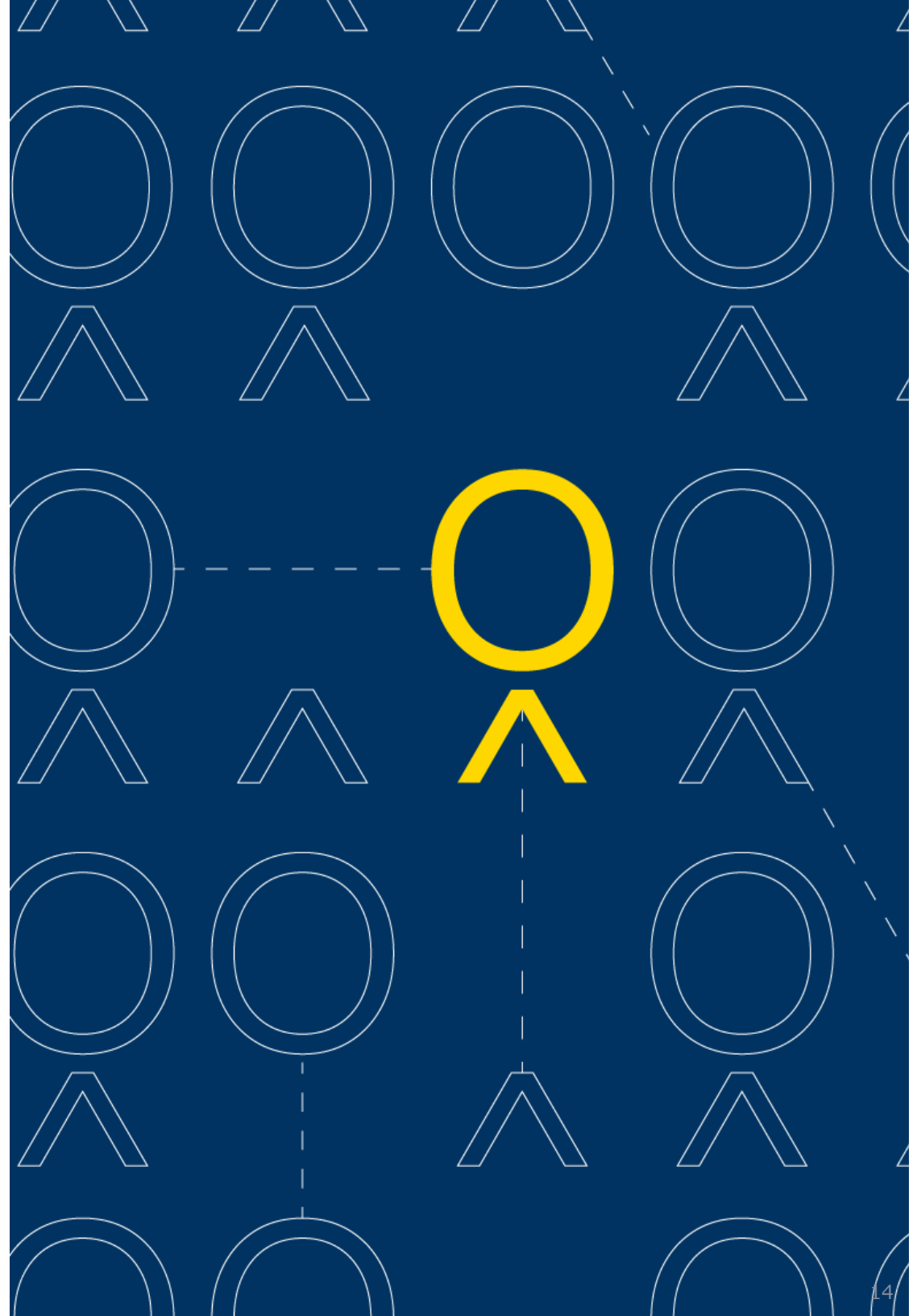
* 2024/3期_4Qについては、シンガポール法人（BE社）へ約2.5億円のシステム売却を行ったため、売上高・営業利益ともに他四半期に比べスケールしている。

	HR	教育	PF/Web3
売上高	1Q売上高 45 百万円 前期比+60.6%	1Q売上高 81 百万円 前期比+17.6%	1Q売上高 8 百万円 前期比△24.4%
セグメント利益又は損失	△ 10 百万円 前期比+31百万円	28 百万円 前期比+85.7%	△ 10 百万円 前期比+21百万円

- ・ **HR/教育事業**は既存商材の売上を着実に伸長させた結果、**前期比増収**。
- ・ PF事業は転職支援サービスの計画的な縮小に伴い、**前期比減収**。

- ・ **HR/教育事業**は、上記に伴いセグメント利益ベースで**前期比改善**。
- ・ **PF事業**もコスト最適化に努めた結果、セグメント利益ベースで**前期比改善**。

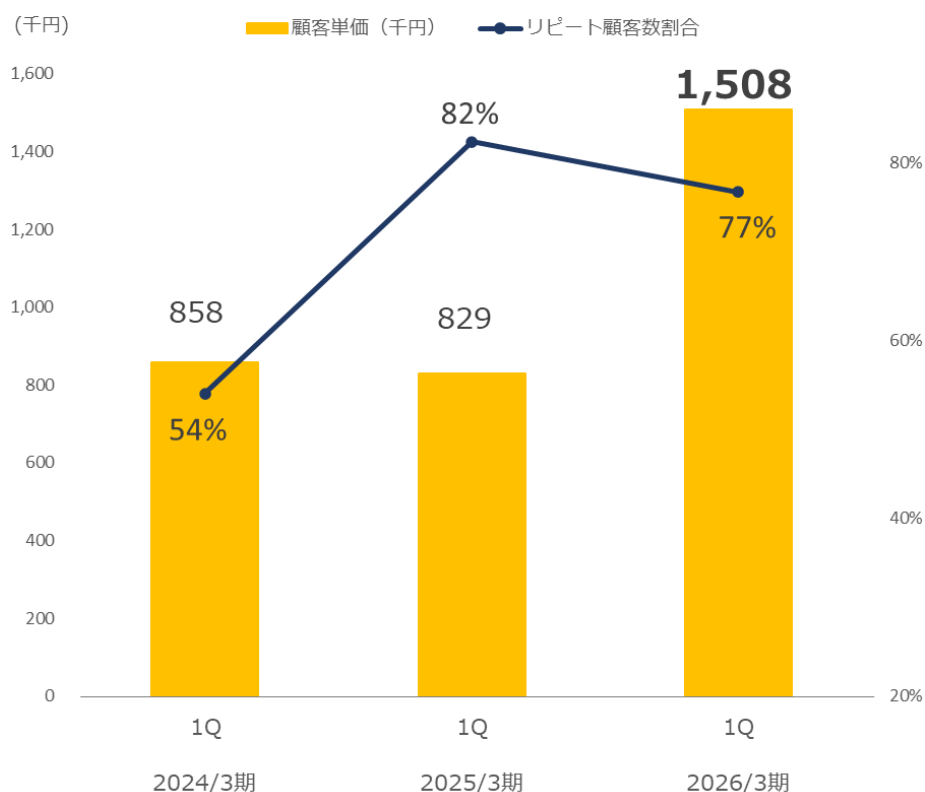
03 ■ 事業別ハイライト



人的資本評価とDX支援を組み合わせ、測定から育成まで一貫した価値提供を実現

- 「人的資本理論の実証化研究会」を4年連続で実施、人的資本のインパクト評価・投資への足掛かりを作る
- 「GROW360」で得られたデータを基に、戦略的なスキルマップ策定から人的資本のROI測定までを一気通貫で支援するコンサルティングを提供
- 上記事例として常陽銀行が有価証券報告書にてGROWを活用した「スキルと成果」の開示を行い、それに伴い地銀業界からの問い合わせが増加している
- リピート顧客割合については、既存顧客のグループ企業への拡大を見据えた取り組みを強化することで高水準を維持しつつ、高単価のコンサルティング受注により顧客単価は上昇

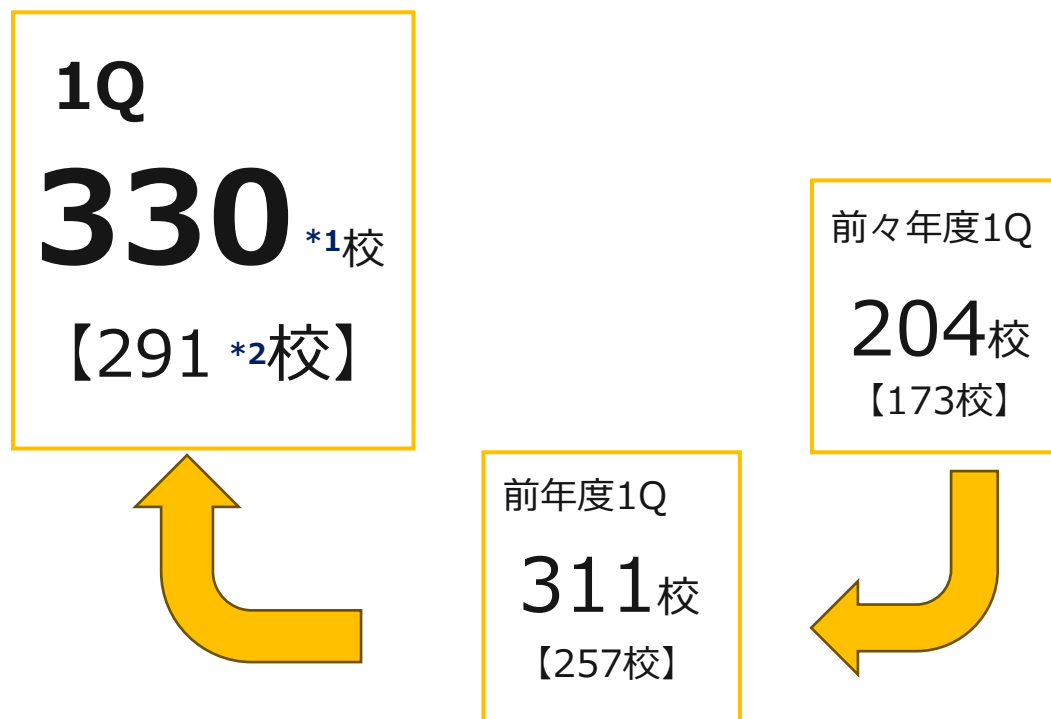
顧客単価とリピート顧客数割合推移



既存商品によるストック収益を積み上げ、協業により収益が拡大

- 主要製品であるAi GROWの順調な成長に加え、株式会社JTБとの共同開発による「J's GROW」が導入校数の増加に寄与
- 昨年度に引き続き、ADB（アジア開発銀行）やERIA（東アジアASEAN経済研究センター）との連携でアジア地域での非認知能力に関する教育効果の国際比較プロジェクトを行っている
- ヤマハ株式会社との連携によるアジアをはじめとしたAi GROWの海外展開を推進
- 経済産業省の「探究・校務改革支援補助金2025」の交付が決定
- 未就学児～小学校低学年の子どもの気質を可視化し、関わり方を提案する新サービス「First GROW」をローンチ

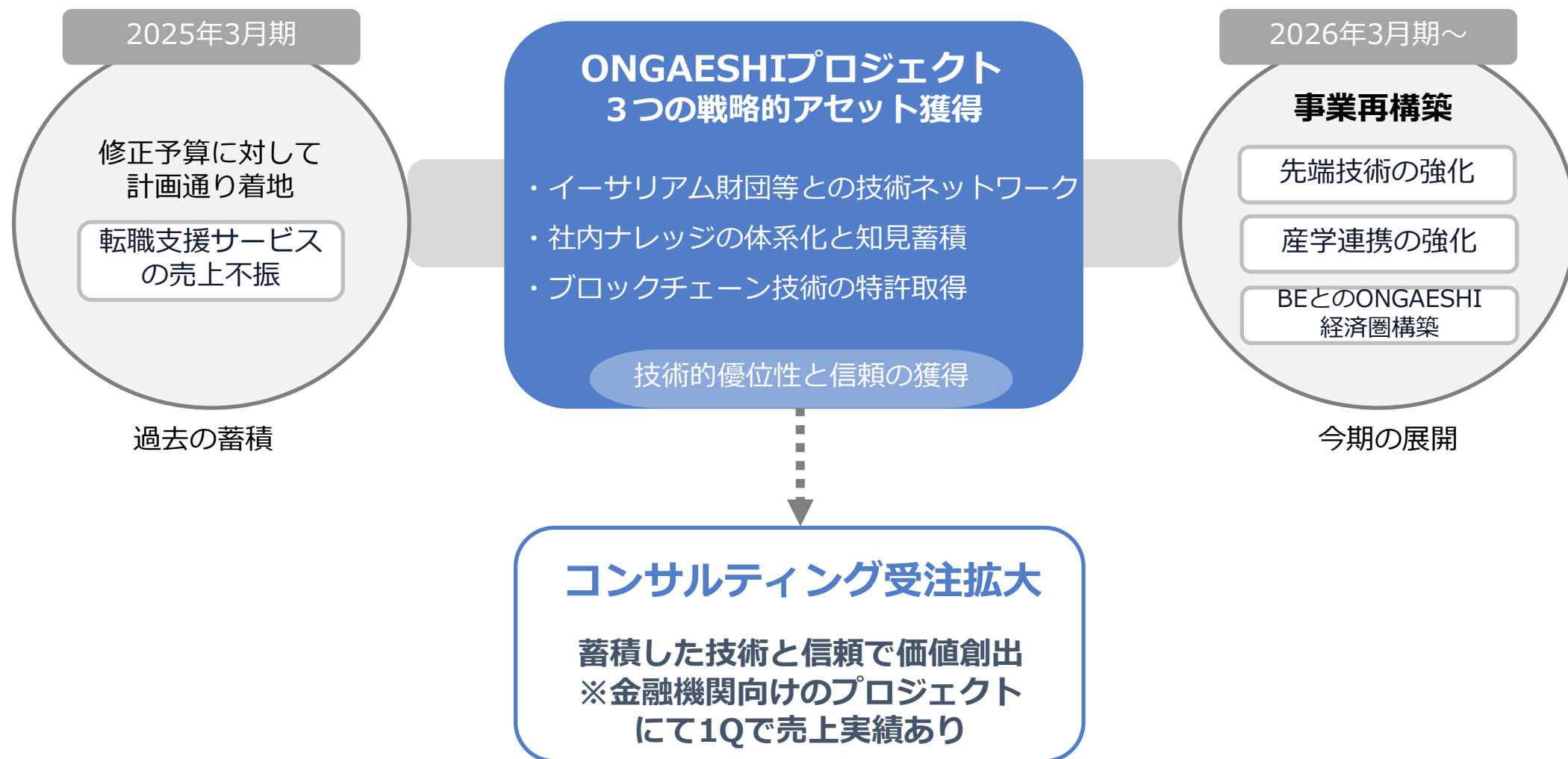
顧客数推移、【】内はAi GROW顧客数



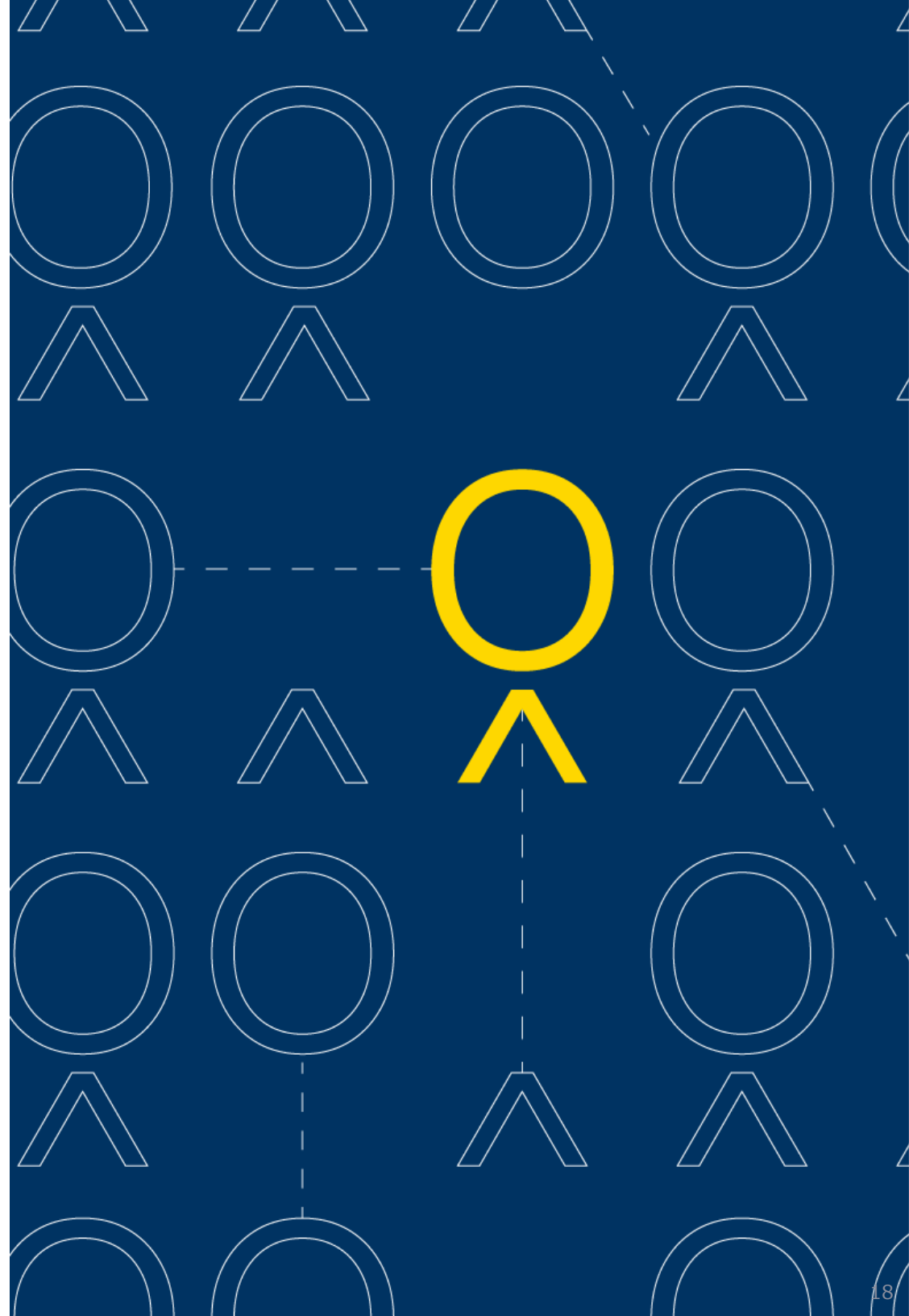
*1 対象期間内に売上を計上した顧客数をサービス別でカウントし合算した延べ数。

*2 「探究・校務改革支援補助金2025」の導入校を含む。

前年度までに蓄積したWeb3の戦略資産を活用し、ブロックチェーン領域でのコンサルティング中心の事業へと再構築を推進



04 ■ 補足資料





(単位：千円)	2025年3月期 1Q連結実績	2026年3月期 1Q連結実績	前期比
売上高	108,208	134,770	+24.5%
売上原価	98,147	73,756	△24.9%
売上総利益	10,060	61,013	+506.5%
販管費	129,423	112,699	△12.9%
営業損失（△）	△119,363	△51,685	-
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△119,495	△50,025	-

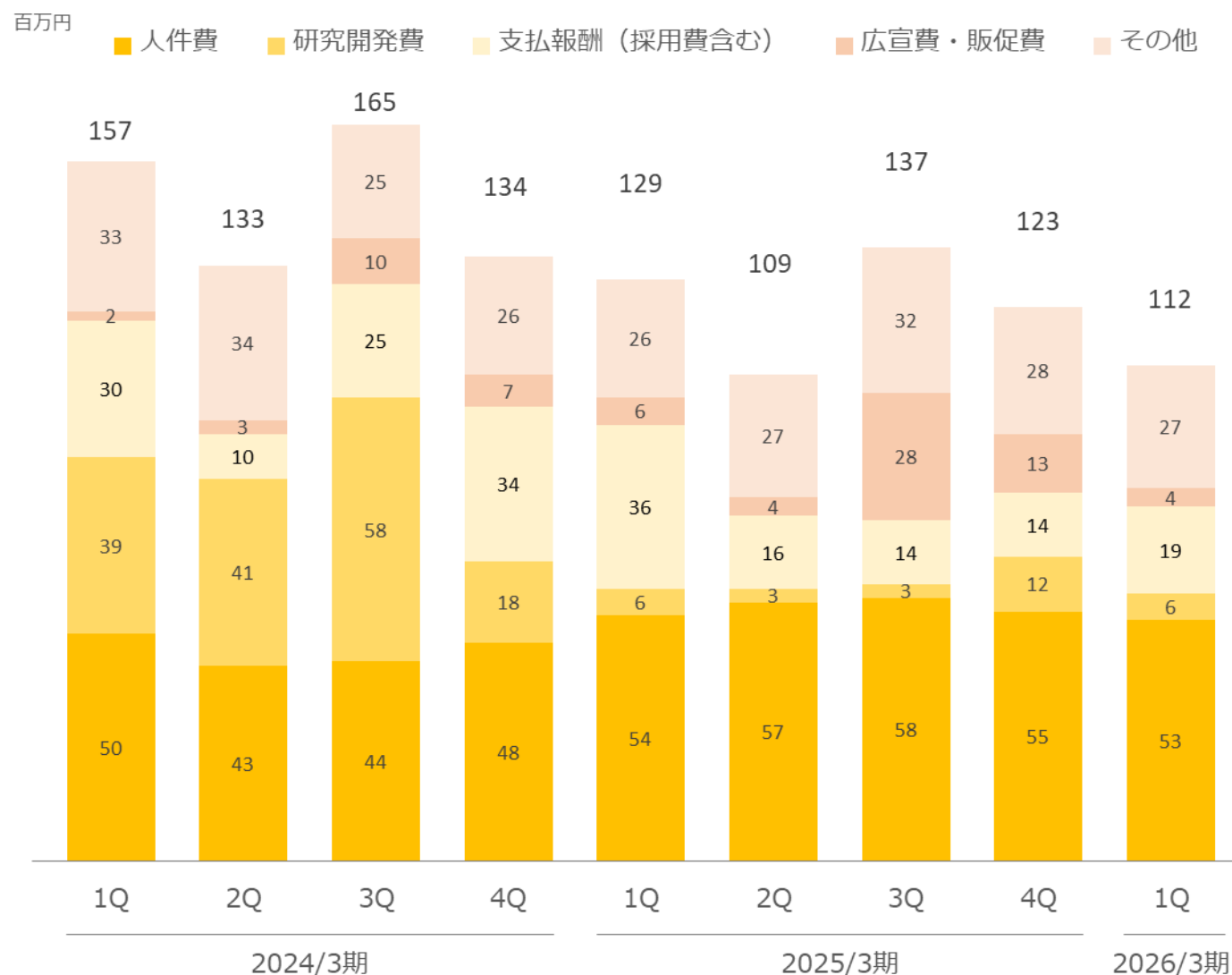
第1四半期売上原価、販管費明細



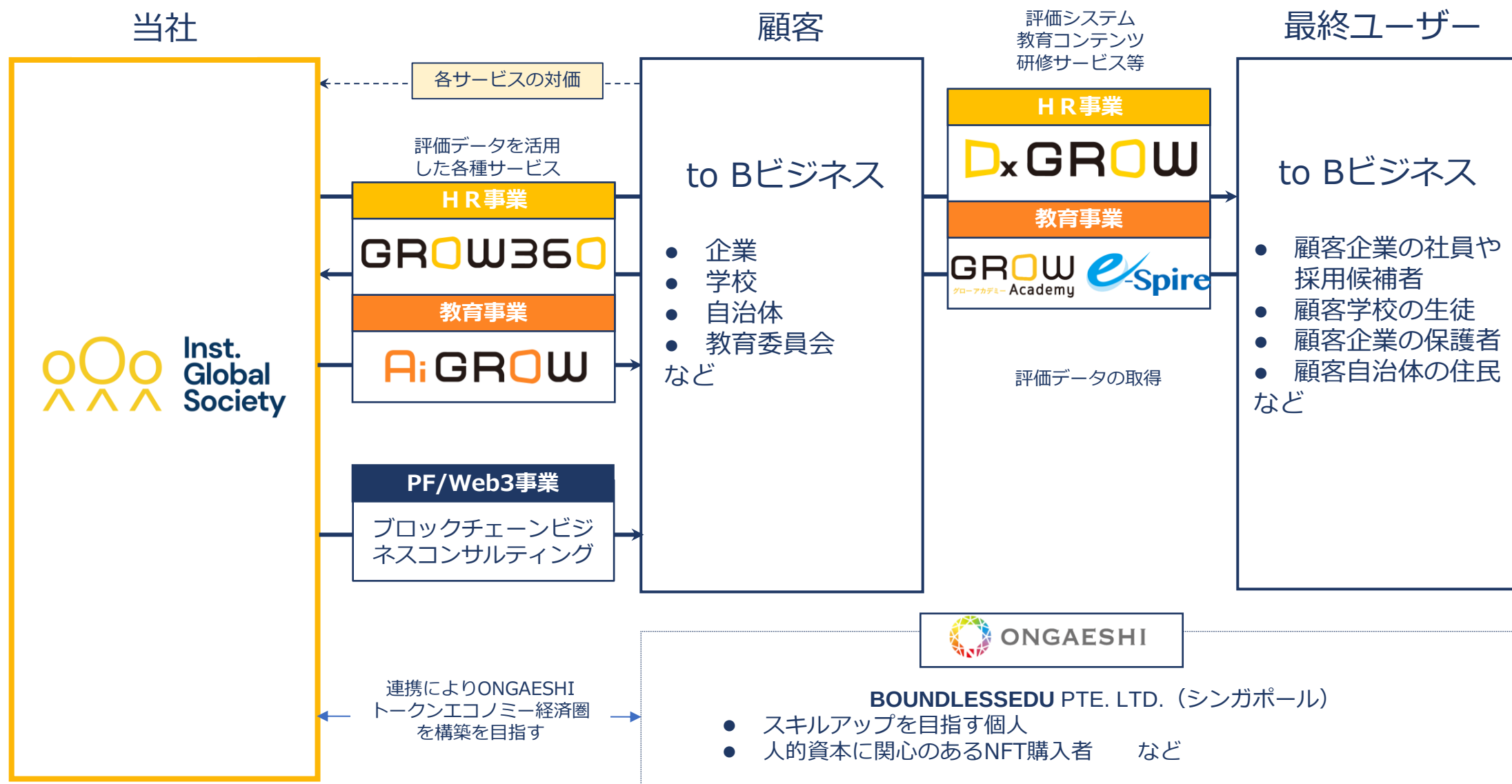
	2025年3月期 1Q連結実績	2026年3月期 1Q連結実績	前期比
(単位：千円)			
売上原価	98,147	73,756	△24.9%
労務費	64,649	42,432	△34.4%
減価償却費	2,719	—	—
外注費	13,989	20,003	+43.0%
その他	16,789	11,320	△32.6%
販売費及び一般管理費	129,423	112,699	△12.9%
人件費	54,345	53,899	△0.8%
研究開発費	6,370	6,957	+9.2%
支払報酬（採用費含む）	36,253	19,483	△46.3%
広告宣伝費・販売促進費	6,293	4,765	△24.3%
その他	26,161	27,593	+5.5%

- 広宣費・販促費は、ONGAESHIプロジェクトの転職支援縮小に伴い、減少。
- 支払報酬（採用費含む）は、一部外注費の削減により、昨年度1Qに比べ減少。

販売費及び一般管理費 推移



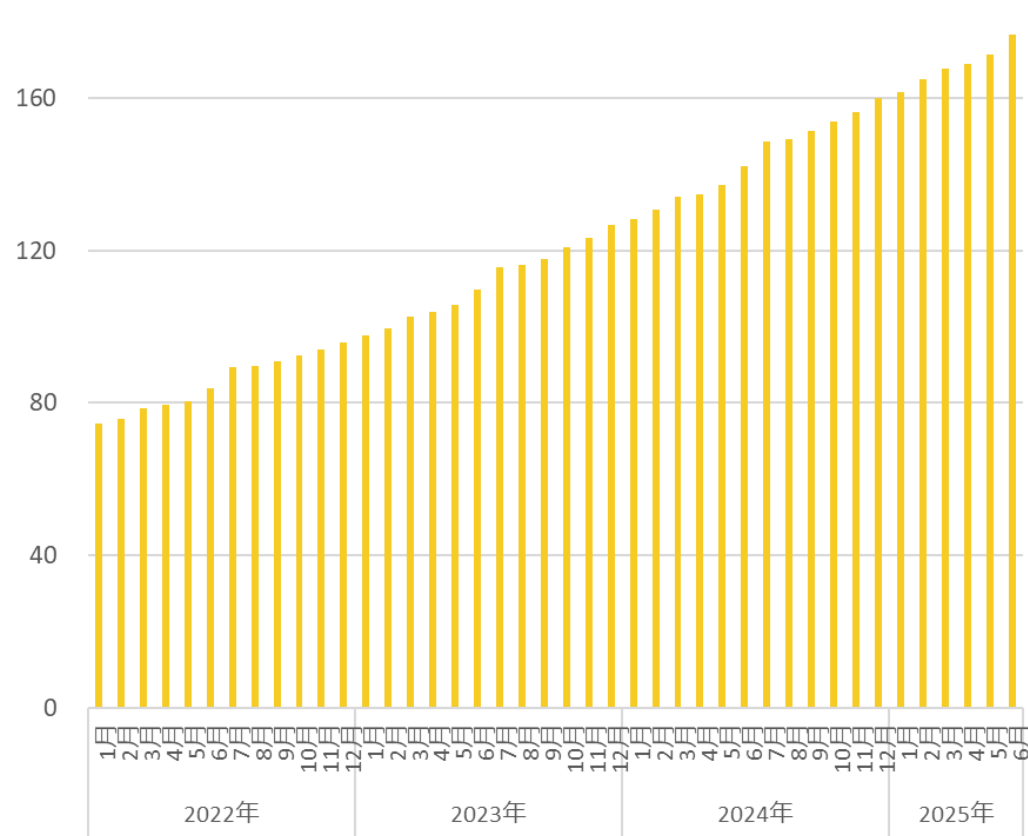
- 直接の顧客は主に企業・学校・教育委員会・自治体であり、当社のサービスの最終ユーザーは企業の社員や採用候補者、学校の生徒など
- ONGAESHIを展開するBE社との連携により、ONGAESHIトークンエコノミー経済圏の構築を目指す



■ バイアスなき多様な評価データ 1億7千万件超・125万人超*の利用実績

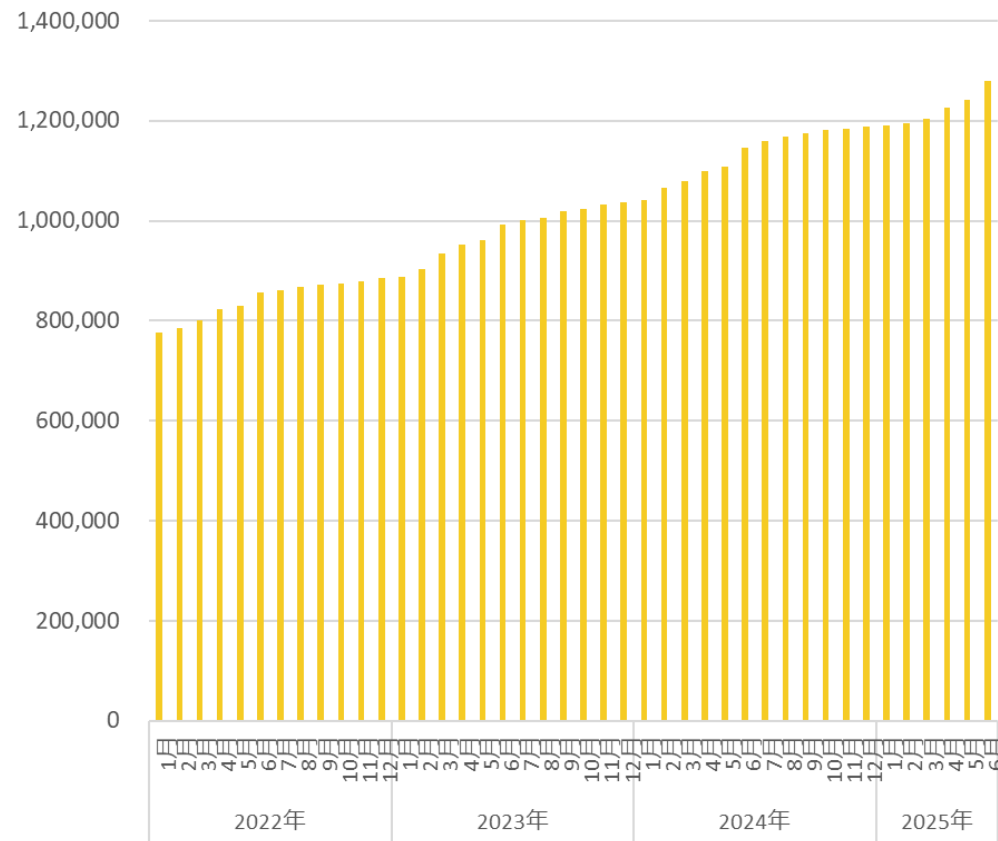
評価件数

百万件



登録アカウント数

人



* 評価件数 = 上記アカウントが実施した他者評価件数（HR事業および教育事業の合計）

* 25項目のコンピテンシーを84問で評価。1人の被評価者に対し、最低3人が他者評価を実施する

* ユーザー数 = 登録アカウント数（HR事業および教育事業の合計）
（2025年6月末時点）

■ 金融業界をはじめ、幅広いバックグラウンドを持つ社内外のマネジメント人材が集結

代表取締役会長CEO 福原 正大 *Masahiro FUKUHARA*

慶應義塾大学卒業。東京銀行（現：三菱UFJ銀行）入行後、INSEAD（欧州経営大学院）でMBA、グランゼコールHEC（パリ）で国際金融の修士号、筑波大学で博士号を取得し、パークレーズグローバルインベスターズ（現：ブラックロック）の取締役を経て現職。



代表取締役社長COO 中里 忍 *Shinobu NAKASATO*

外資系PR会社でクライアントサービス責任者として300以上のサービスや商品のマーケティングPRを担当した後、オンラインメディア企業の広報及び協会ビジネス担当執行役員を経て現職。

取締役 中江 史人 *Fumito NAKAE*

京都大学経済学部卒業。三菱銀行（現三菱UFJ銀行）に入行し、1996年に同為替資金部副部長、及び東京外国為替市場委員会議長に就任。1999年にスタンダードチャータード銀行に入行し、同ホールセールバンキング共同代表兼グローバルマーケット部門長等務める。2021年に当社社外監査役に就任、2022年に現職。

常勤監査役 加納 裕 *Yutaka KANO*

東京工業大学工学部機械物理工学科卒業。ベンチャー企業設立に参加し技術担当取締役や代表取締役CTOを歴任。

社外取締役 幸田 博人

Hiroto KODA

一橋大学経済学部卒業。日本興業銀行に入行し、2016年みずほ証券取締役副社長（代表取締役）に就任。2018年に同社退任後、(株)イノベーション・インテリジェンス研究所社長、(株)産業革新投資機構（社外）取締役などをつとめる。2021年に当社社外取締役に就任。

社外監査役 稗田 さやか

Sayaka HIEDA

一橋大学法学部卒業。2007年弁護士登録し半蔵門総合法律事務所に入所。退所後、2010年に表参道総合法律事務所に入所（現任）。2019年に東京建物株式会社社外監査役に就任。2021年に当社社外監査役に就任。

社外監査役 小林 武

Takeshi KOBAYASHI

慶應義塾大学卒。東京銀行に入行。HEC経営大学院（仏）でファイナンス修士号取得。格付投資情報センター、パークレイズ・グローバル・インベスターズなどで企業評価、資産運用、コンサルティング等に従事。筑波大学大学院で博士号（経営学）取得。名古屋商科大学ビジネススクール教授。2022年に当社社外監査役に就任。

会社名	Institution for a Global Society 株式会社
所在地	東京都渋谷区恵比寿南一丁目11番2号
事業内容	AIを活用した人材評価プラットフォームを 企業や学校に提供
設立日	2010 年 5 月 18 日
資本金	50 百万円（2025年6月末現在）
代表者	代表取締役会長CEO 福原 正大（創業者） 代表取締役社長COO 中里 忍
従業員数	42名

サービス
紹介



■ 将来情報に関する免責

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

■ 公開情報に関する免責

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいております。



分断なき持続可能な社会を実現するための
手段を提供する。

Institution for a Global Society 株式会社

〒150-0022

東京都渋谷区恵比寿南一丁目11番2号

TEL: 03-6447-7151 / FAX: 03-6447-7152

URL: <https://www.i-globalsociety.com/>